

活用事例	<b>3 10</b> 授業中に地震・津波が発生した場合の二次避難場所までの避難及び保護者への引き渡し訓練 <b>【特色】</b> 保護者と合同の避難訓練、保護者への引き渡し訓練		
学校名	岩国市立小瀬小学校		
日時	平成25年11月29日（金） 3時間目		
場所	運動場及び東地区高台	参加者	児童・教職員及び保護者

## 1 訓練のねらい

### 【児童】

非常事態に際し、お互いが助け合っで安全で的確な避難訓練ができる態度と能力を身に付ける。

### 【教職員】

生命保護を第一に的確な判断で児童を誘導・避難させ、地震・火災・津波の被害を最小限に留める処置の仕方や組織としての防災の役割分担の確認をする。

### 【保護者】

二次避難場所を確認し、児童の引き渡しの練習をする。

## 2 訓練の概要

### (1) 本校の環境



本校は、海拔9mであり、隣接する小瀬川の河口から4km地点にある。大規模地震が発生した場合は、小瀬川を遡上してくる波による水害が予想されるため、高台（学校から360m・海拔45m）に避難する必要がある。また、地下には小方-小瀬断層が走っている。この断層は、活断層でもあるため、直下型の地震が発生する可能性もある。

### (2) 訓練の想定

大きな地震が発生し、電氣的ショートによる火災が家庭科室で発生する。そのため一次避難を行う。その後、津波発生の情報を確認し、二次避難を行う。

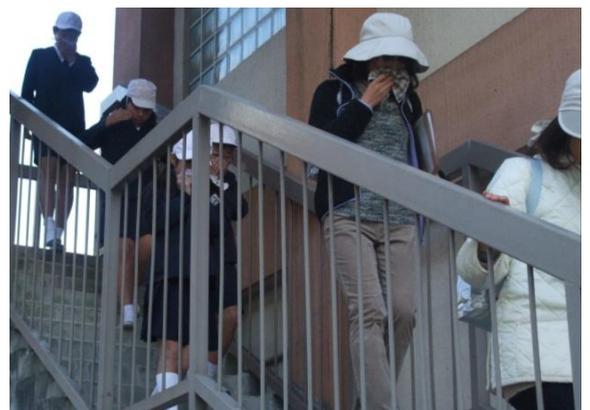
### (3) 訓練の実施

- ① 地震の効果音を流す。  
効果音が流れると同時に、机の下に身を隠す。余震発生も考えられるので、しばらくそのまま待機させる。



- ② 火災警報機が発報する。  
発火場所の確認を教頭と校務員が行う。初期消火を行うが、鎮火できないため、消防への通報と避難の開始を通告する。

- ③ 一次避難をする。  
停電により、校内放送が使用できないので、教頭が各階に非常階段を使用して一次避難を開始するように通告する。担任の指示のもと、児童は運動場への避難を行う。



- ④ 津波発生の情報により、二次避難場所へ避難する。



- ⑤ 保護者と教頭が、二次避難場所への経路を確認する。



- ⑥ 二次避難場所で、校長が避難訓練の評価と講評をする。



- ⑦ 保護者と担任が児童の引き渡し訓練をする。



- ⑧ 学校に戻る。

### 3 訓練の成果と課題

#### 【成果】

- ◇ 各学級に非常持出袋を配備したこと。  
袋の中には、懐中電灯・乾電池・ビニル袋・革手袋・ガムテープ・マジック・ペン・引渡名簿を入れている。東北大震災の被災者の声を参考に、最低限必要なものをそろえた。



- ◇ 保護者と児童の引き渡し訓練ができたこと。  
平日に実施したため参加数が少なかったが、今後につながる訓練になった。
- ◇ 保護者が参加することで、二次避難場所と避難経路を確認してもらえたこと。  
文書や写真などで保護者に二次避難経路や避難場所を知らせてはいるのだが、実際に訓練に参加することを通して正確な位置関係を把握することができた。

#### 【課題】

- ◆ 地域と連携した避難訓練を実施する必要があること。  
学校だけの避難訓練ではなく、市役所出張所、消防団、自治会などと連携した地域の避難訓練が実施できるように、市役所出張所に働きかけていきたい。
- ◆ 一人でも多くの保護者が参加できるようにすること。  
平日に実施したため保護者の参加数が少なかった。土曜日に実施するなど参加者を増やす工夫をしていきたい。
- ◆ 多様な内容を訓練に取り入れること。  
けむり体験、消火体験、地震体験などを体験させることができるように、内容を工夫していきたい。